

## 「労使共同宣言」には思いがいっぱい？

## リニアによる如何なる困難があろうとも忠誠を誓う宣言！

### 「将来につなぐ共同宣言」抜粋

2. 私たち労使は、一層の安全の確立や優れたサービスの提供など会社が担う事業の発展に取り組むとともに、新たな領域にも果敢に挑戦していく。そして、いかなる課題に直面しようとも共に乗り越える建設的な労使関係を将来にわたって磨き上げていく。

JR東海9月号にて、『さらなる会社の発展と社員・家族の幸せを目指しJR東海ユニオンと「将来につなぐ共同宣言」を締結』が労使ツーショット入りで紹介されている。

正直、なんで今さらながら「共同宣言なの？」という感じは否めない。しかし、「社員や家族の幸せを目指す」というならば、最低限、業界ダントツと言われる平均**5821万円**もの役員報酬は見直すべきだ？国民からの財産を受け継いだ企業だというのに、ハッキリ言って横領だ。

自分たちの襟は正さない一方で、社員には、人件費を含む大幅コストカットや労働強化を断行しておきながら、よくも「将来につなぐ共同宣言」だと言えたものだ？

平成5年を最後に、なぜ今さら25年目の労使共同宣言なのだろうか？経営理念の刷新といい、36協定の特別条項といい、何かJR東海の身の上に異変でもあるのだろうか？と勝手に探りを入れてみる。

つまりは老害葛西名誉会長による独断であり、地域住民を軽視して行われる「ペイしない破滅型リニア事業」を取り巻く情勢は、昨今かなり厳しい状況にある。

800名もの大原告団によるリニア訴訟、国民への裏切りとなった3兆円もの財投融資（財務省は馬鹿査定と揶揄）、まったく未解決の工事残土など問題山積。三菱重工の車両製造からの撤退など。そして最も影響しているのは未だに老害として居座る独裁者の名誉会長の存在だろう。

今後難工事（自然破壊）を含め、あらゆる問題難問が噴出しかねない状況にある。社員は信じたくないだろうが経営破綻すらあるかもしれない。いわゆる会社生命を賭けこの破滅型事業に、社員諸とも突き進んでいくと言っている宣言に等しい。

**今からでも遅くはない！**

**リニア事業を中止に追い込もう！**